

横浜市立高田小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○PSY事業を推進を核に児童の学力向上を目指すとともに、教職員の授業力向上に努めます。 ○学習環境を整え、学校生活における日常的な言語活動に努めます。 ○朝15分を基礎・基本タイムとして、はまっ子学習ドリルなどを活用し、知識・技能の定着を図ります。また家庭学習の習慣化を図ります。	○PSY事業に前向きに取り組み、ICT機器を効果的に取り入れる学習場面が増えてきた。 ○板書・掲示物・ワークシート・ICT機器などの学習環境を整え学習効果を高めた。 ○モジュールの時間の使い方が担任によって違う。全校で統一した方がよい。	A B C D
2 豊かな 心	○異学年交流や福祉活動、人権教育活動、体験学習等を取り入れ、豊かな心や人間性、思いやりの心やふれあいを大切にしようとする心情を育てていきます。 ○週1回の朝読書タイム(読み聞かせタイム)を継続し、年間35時間以上の道徳の時間の確保と積極的な公開に努めます。	○ペア学級での活動が多く、縦割りのよい関係が見られた。 ○人権週間の取り組みをもう少し充実させたい。 ○朝読書タイムはどの学級でも定着している。子どもたちを落ち着かせる効果もある。 ○道徳の授業は全学級授業参観で取り上げた。	A B C D
3 健やかな体	○全校児童による持久走会、全校長縄大会等に向けた取り組みを通して体力の向上に努めます。	○持久走会、長縄大会は、一人ひとりがめあてをもって取り組むが、年間を通じて取り組める活動が必要。 ○外遊びに消極的な児童に対する働きかけ、取り組みをすべき。遊び方を教えることも必要ではないか。	A B C D
4 安全管理	○OPTA地区委員と協働して集団登校班の歩行状況や地域の状況を把握します。 ○職員が毎朝交差点に立ち、登校指導を行います。また、学区内パトロールを適宜実施します。	○一斉下校週間や朝の登校指導で児童の安全指導を行っているが、下校については指導が十分行き渡っているとは言えない。 ○集団登校ではなく、自由登校についても考えていきたい。	A B C D
5 特別支援教育	○児童一人ひとりの豊かな成長を目指して、配慮を要する児童の実態を全教職員が共通理解して、コーディネーターを中心に学年、学校全体で対応していきます。 ○行政機関との連携を図りながら研修を行い、指導力を向上させます。	○専任を中心に、昨年度よりもきめ細かい支援ができるようになった。 ○リハセンターの方に来ていただいたコンサルティングを行い、指導に生かすことができた。	A B C D
6 教職員の研究研修	○授業力向上のため、授業研究会を併いながら、メンター研修、重点研究会に積極的に取り組みます。 ○週1回の研修日の設定と、学年研を充実させます。	○全職員で授業力向上のために研究・研修に努め、成果もあがってきた。 ○週1回の研修は時間的に不可能。学年研を週1回確保することで精一杯。	A B C D
7 教育課程 ・学習指導	○各教科・領域の学習指導計画を作成、検証します。(あと「1 確かな学力」の取り組みと同じ)	○学習指導計画については毎年流動的な面があるが、学年内で話し合い、上手に運用した。 ○各学年で行っているはずだが、それが形として残っていない。 ○教科だけでなく各学年の学習指導計画を見直す必要がある。	A B C D
8 人材育成組 織運営	○メンターチーム(初任から3年次まで)の育成のための研修を初任者研修の年間計画に位置づけ、経験の少ない教職員の人材育成に努めます。 ○リーダーを育成しながら、教職員の専門分野や熱意が生かされる組織作りを行います。 ○時間短縮を意識した会議の改善を行います。	○メンターチームや研究部など一部職員がプレゼン力向上のために努力している。 ○それぞれの部門で担当者は努力しているが、仕事量が多いからバランスよく組織が運営されていない部分がある。 ○共有フォルダの掲示板があまり機能していない。会議等短縮のためにも積極的に活用すべき。また、他に短縮できる方法も考えていきたい。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○小中一貫教育全体計画構造図が完成した。 ○3校の職員による、お互いの授業の見学、研究会を実施する。 ○3校全教職員による合同研究会を実施する。
-------------------------------------	--

学校関係者 評価結果	○登校時、挨拶する子が多くなった。また、高田の地域学習にもよく取り組んでいる。 ○教職員が相談によく乗ってくれる。 ○学校は、子どもたちが伸び伸びと成長するように配慮していると思う。子どもたちも伸びびてきているように思う。 ○学年をまたいだ年齢幅のある活動(異学年集団での活動)を、もっと進めてほしい。
---------------	--

評価結果に 対する 学校の見解	○各学年の学習指導計画の見直しを図る。 ○異学年集団活動の充実を図る。 ○小・中学校の教員がお互いの授業を見学したり、中学校の教員が小学校で授業をしたりする機会をつくる。
-----------------------	---

学校運営 中期目標 達成状況	○3年間PSY研究指定を受け、どの職員もICT機器を効果的に使うことができるようになり、授業力の向上につながった。しかし、基礎基本の定着は今一歩であるため、継続的な学習の充実を図る必要がある。 ○児童支援専任の配置もあり、不登校児童や学級内で不適応を起こす児童に対する対応が早くなった。今後も家庭や諸機関と連携を取りながら児童指導、特別支援に取り組みたい。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○重点研究(算数)を核に児童の学力向上を目指すとともに、教職員の授業力向上に努めます。 ○学習環境を整え学校生活における日常的な言語活動の充実を努めます。 ○朝15分を基礎・基本タイムとしてドリル等を活用し、知識・技能の定着を図ります。また、家庭学習の習慣化を図ります。	○PSYを通して得たことを生かしながら授業に励む職員が多いが、基礎基本の定着を図ったり学習環境を整えたりすることに關しては、職員の意識に差がある。 ○重点研究で算数を取り上げて研究を進めたが、目に見えた成果が現れてこない。もう少し(2、3年)継続して研究に取り組む必要がある。 ○朝学習の時間に、漢字、計算の基礎練習を継続して実施した。	A B C D
2 豊かな 心	○ペア学級活動や福祉活動、人権教育活動、体験学習等を取り入れ、豊かな心や人間性、思いやりの心やふれあいを大切にしようとする心情を育てていきます。 ○朝読書タイム(読み聞かせタイム)を継続するとともに、年間35時間以上の道徳の時間の確保と積極的な公開に努めます。	○ペア学級活動や体験学習、ふれあい活動など、様々な直接体験の場は十分に確保し、継続的な支援が行われていると思う。 ○朝読書タイム(読み聞かせタイム)を継続するとともに、年間35時間以上の道徳の時間の確保と積極的な公開に努めます。	A B C D
3 健やかな体	○全校児童による持久走会・長縄大会に向けた取り組みを通して体力の向上に努めます。また、竹馬、一輪車などを休み時間に自由に使えるようにし、休み時間の遊びに変化をもたせたい。 ○給食の時間を通してバランスのよい食事をとることに努めます。	○運動委員会の積極的な取組によって、年間を通じて体力向上プログラムを実施することができた。 ○保健指導や給食指導に關しては、教師主導から子どもたちの自発的な活動から学ぶようしてほしいのとさらに、 ○外で遊ぶ児童が少なく感じる。外遊びの励行が必要か。	A B C D
4 安全管理	○OPTA地区委員と協働して集団登校班の歩行状況や地域の状況を把握します。 ○職員が毎朝交差点に立ち、登校指導を行います。また、学区内パトロールを適宜実施します。	○登校班会議、朝の登校指導、地域巡回など、積極的に児童の安全面に目を向けた取組を行っていると思う。 ○登校時は登校班だし学援隊の方の見守りもあるのよいが放課後は職員も会議等で人手不足のため気になる。	A B C D
5 特別支援教育	○児童一人ひとりの豊かな成長を目指して、配慮を要する児童の実態を全教職員が共通理解して、コーディネーターを中心に学年、学校全体で対応していきます。 ○行政機関との連携を図りながら研修を行い、指導力を向上させます。	○担任一人で抱え込まず、専任を中心に管理職、学年、養護教諭等、多くの教職員で情報を共有し、個々に応じた支援を心がけていると思う。 ○月一回の児童理解やブロックでの情報交換により、共通理解を図ることができた。リハセンターとの連携も図ることができた。	A B C D
6 教職員の研究研修	○授業力向上のため、授業研究会を併いながら、メンター研修、重点研究(昨年度に引き続き算数)に積極的に取り組みます。 ○学年研究会を充実させるとともに、各種研修会に積極的に参加し、日日の授業に生かします。	○重点研究(算数)やメンター授業研究会など、全教職員で積極的に取り組めたと思う。 ○算数の専門教員が不在のため、研究の方向性や指導のあり方など戸惑いも多かった。教材研究や学年研の時間確保を図る必要がある。	A B C D
7 教育課程 ・学習指導	○ICT機器を効果的に授業に生かし、子どもたちの興味・関心を高めるとともに思考力を高める授業(特に今年度は算数)を目指します。	○ICT機器の活用は、他校より進んでいると思う。今後もより効果的な使い方によって、授業内容を充実させていきたい。 ○授業の中でICT機器を活用は、職員に抵抗感もなく日常的に行っているが、そのことイコール指導力向上と捉えるのは違うと思う。	A B C D
8 人材育成組 織運営	○メンターチーム(初任から3年次)の育成のための研修を年間計画に位置づけ経験の少ない教職員の人材育成に努めるとともに、教育公務員としてのあり方や学級経営、教育技術向上に向けた研修を行います。 ○リーダーを育成し教職員の熱意や専門分野が生かされる組織作りを行います	○メンターチームは、リーダーを中心によくまとまり、研修も盛り多くなった。 ○メンターなど組織の充実はある程度図られてきている。主幹教諭を核にして、ブロック研の充実など学級・学年を超えた日常的なアドバイスにより、さらに人材育成を図りたい。 ○打合せでの掲示板の活用など会議短縮の改善が見られた。 ○特定の職員に仕事量が偏り、一人一人の仕事内容に大きな差がある。異動してきた職員も初任者にもっと任せよう。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○小学校、中学校お互いの授業を見合うことにより、子どもの成長の様子を直に感じることができたことは有意義だった。 ○小学校、中学校とも、各教科で児童・生徒の表現力を高めようとする授業を目指した。 ○観点に沿った系統性をより意識して、基礎・基本の充実(基本的な技能を身につけるための反復練習も含む)を図る。
-------------------------------------	---

学校関係者 評価結果	○6年生は下級生に優しく接しているし、全体的に挨拶もよくできているので、「豊かな心」が成長しているように思う。 ○「安全管理」については、学援隊の協力を得ているし、職員・PTAもパトロールを実施している。また、自主的に見守り活動を実施している町会もあるが、さらに学校と連携を強めよう。 ○ICT機器は、クラスによって使い方の差がある。学年で情報交換などを密に行い、クラスによる差を少なくしてほしい。
---------------	---

評価結果に 対する 学校の見解	○「豊かな心」の伸長のためにも、引き続き気持ちのよい挨拶ができる子を育てていく。 ○自主的に見守りをしてくださっている町会と、できるだけ連携を図る。 ○すべての職員がICT機器の操作を確実なものとし、授業に生かせるようになる。
-----------------------	---

学校運営 中期目標 達成状況	○今年度、重点研究として「算数」を取り上げ、研究を進めてきたが、基礎基本の定着が充分とは言えないので、引き続き努力する必要がある。 ○配慮を要する児童に対しては、定期的に職員間で情報交換をしているため、全職員が同じ方向で支援できるようにになった。さらなる家庭との連携を進めていきたい。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○重点研究(算数)を核に児童の学力向上を目指すとともに、教職員の授業力向上に努めます。 ○朝15分を基礎・基本タイムとしてドリル等を活用し知識・技能の定着を図ります。また、家庭学習の習慣化を図ります。	○研究授業を行うことで具体的な形で成果と課題を見いだすことができた。互いの授業を見合うことで、日常的に授業力向上を図ることができるとよいと思う。 ○朝15分の基礎基本タイムは、クラスにより取組に差がある。学校全体で統一に取り組むとよい。	A B C D
2 豊かな 心	○ペア学級活動や福祉活動、人権教育活動、体験学習等を取り入れ、豊かな心や人間性、思いやりの心やふれあいを大切にしようとする心情を育てます。 ○週1回の朝読書タイム(読み聞かせタイム)を継続し、年間35時間以上の道徳の時間の確保と積極的な公開に努めます。	○ペア学級活動の成果が現れ、声のかけ方が上達してきた。ただ、活動が中休みと夏休みの作品展の鑑賞に限られていた。もっと幅広い活動の場を設定する必要がある。 ○朝読書や読み聞かせは、児童の読書力向上や心身の安定に役立っている。	A B C D
3 健やかな体	○持久走会・長縄大会等に向けた取り組みを通して体力の向上に努めます。また、竹馬、一輪車などを休み時間に自由に使えるようにし、休み時間の遊びに変化をもたせたい。 ○保健委員会による元気アップビンゴに、全校で積極的に取り組みます。	○持久走会や長縄大会は単発的。年間を通じた取組を実施したい。 ○保健委員会の活動である元気アップビンゴは、その活動がけんこう会議にもつながっており、子どもたちの健康に対する意識の向上につながっている。	A B C D
4 安全管理	○OPTA地区委員と協働して集団登校班の歩行状況や地域の状況を把握します。 ○職員が毎朝交差点に立ち、登校指導を行います。また、学区内パトロールを適宜実施します。	○朝の登校指導や緊急時のパトロールには、全職員で対応できた。 ○月1回の下校指導が年度途中から実施されなくなった。行事予定に組み込むなど、年間を通じた取組にする必要がある。	A B C D
5 特別支援教育	○児童一人ひとりの豊かな成長を目指して、配慮を要する児童の実態を全教職員が共通理解して、コーディネーターを中心に学年、学校全体で対応していきます。 ○行政機関との連携を図りながら研修を行い、指導力を向上させます。	○職員会議での児童理解やケース会議を活用して、配慮を要する児童への理解が深まったが、一部の職員に負担が偏り、個への対応、支援等についても改善すべき点が多い。	A B C D
6 教職員の研究研修	○授業力向上のため、一人年1回以上の研究授業を行うとともに、メンター研修にも積極的に取り組みます。 ○学年研究会を充実させるとともに、月1回はブロック研を開催し、情報を共有するようにします。	○授業研も大切だが、今年度実施されたICTの実践研修なども、若手教員のみならず全教職員にとって有意義なものであった。 ○ブロック研が定着してきてブロック内で動くことが度々あった。特に高学年でブロック研は有効である。	A B C D
7 教育課程 ・学習指導	○ICT機器を効果的に授業に生かし、子どもたちの興味・関心を高めるとともに、思考力を高める授業(昨年度に引き続き算数)を目指します。	○ICT機器を日常化して授業で使うことができた。 ○デジタル教科書(国語・算数)も配備され、ハード面では恵まれていた。今後は、教員がICT機器をさらに効果的に授業で活用するための技能を高めていくことが重要である。	A B C D
8 人材育成 組織運営	○メンターチーム(初任から3年次)の育成のための研修を年間計画に位置づけ経験の少ない教職員の人材育成に努めるとともに、教育公務員としてのあり方や学級経営、教育技術向上に向けた研修を行います。 ○リーダーを育成し教職員の熱意や専門分野が生かされる組織作りを行います	○メンターチームの育成や教職員の専門性を生かす組織作りをさらに推し進める必要がある。 ○職員一人一人が前向きに仕事に取り組めるように一人一役でいければよいのだが、本校の規模だとそれも難しい。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	○地域行事、学校行事等の打合せ、情報の共有化がスムーズになった。 ○3校の職員が顔を合わせ、目指す子ども像の共有、9年間を見通した指導、児童理解、についての情報の共有化を図ることができた。 ○6年生が中学校に出かけていき、学校生活の様子を聞いたり実際に授業を受けたりすることで、中学校生活に向けて期待をもつことができた。
-------------------------------------	--

学校関係者 評価結果	○3年生が育てた花を、幼稚園や保育園にプレゼントしてもらい、うれしかった。1年生と交流した子どもたちがした子どもたちが、進んで水やりをしている。1年生以外の学年との交流もしていきたい。 ○下校時の子どもたちの様子が気になる。後ろ向きで歩行したりふざけあっていたり、危険である。 ○世代交代が進んできているので、学校に通う子どもも増えるのではないかな。
---------------	---

評価結果に 対する 学校の見解	○幼稚園・保育園との関わりがあるのは、このところ1年生だけだったが、今年はまち探検で2年生が関わったり、花いっぱいプロジェクトを通じて3年生も関わりをもった。今後も関わりを広げていきたい。 ○登校は集団登校でない、学援隊の方や保護者の協力も得ているのでよいが、下校については集団で帰宅するわけではないので、危ない場面も見受けられる。定期的な下校指導、パトロールが課題である。
-----------------------	--

学校運営 中期目標 達成状況	○ICT機器を日常的に使いこなすことによって、児童の興味関心を引き出すことは毎年向上している。しかし、基礎基本の定着については大きな成果があがらなかった。 ○配慮を要する児童に対する支援が、一部の職員に偏りがちだった。また、一人ひとりの児童に寄り添う時間の確保が難しかった。 ○若手リーダーを育成するための体制の整備、また若手リーダー活躍の場の設定も必要。
----------------------	--



